

# わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」 に関する文献リスト (2018)

Bibliography of the intensive group experience  
and group psychotherapy in Japan : 2018

野島 一彦

跡見学園女子大学  
心理学部臨床心理学科

Kazuhiro Nojima

Faculty of Psychology, Atomi University

坂中 正義

南山大学  
人文学部心理人間学科

Masayoshi Sakanaka

Faculty of Humanities, Nanzan University

## I. はじめに

本文献リスト・シリーズでは、1989年までは「集中的グループ経験」「集団精神療法」のリストは別々に作成されているが、1990年からは2つのジャンルは一緒に収録されている。以下にこれまでのリストを示す。

### ●「集中的グループ経験」に関する文献リスト (～1989)

- (1) 野島一彦 1983 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (～1969) 一付：グループ関係者(団体)名簿〔1982年12月現在〕福岡大学人文論叢, 14(4), 1457-1479.
- (2) 野島一彦 1980 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1970～1980) 九州大学教育学部心理教育相談室紀要, 6, 69-93.
- (3) 野島一彦 1982 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1981) 一付：同リスト〔1970～1980〕の追録 九州大学心理臨床研究, 1, 87-95.
- (4) 野島一彦 1983 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1982) 一付：同リスト〔1970～1981〕の追録九州大学心理臨床研究, 2, 107-115.
- (5) 野島一彦 1984 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1983) 一付：同リスト〔～1982〕の追録およびグループ関係者(団体)名簿〔1983年12月現在〕福岡大学人文論叢, 15(4), 1479-1515.
- (6) 野島一彦 1985 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1984) 一付：同リスト〔～1983〕の追録およびグループ関係者(団体)名簿〔1984年12月現在〕福岡大学人文論叢, 16(4), 1527-1563.
- (7) 野島一彦 1986 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1985) 一付：同リスト〔～1984〕の追録 福岡大学人文論叢, 17(4), 775-790.
- (8) 野島一彦 1987 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1986) 一付：同リスト〔～1985〕の追録 福岡大学人文論叢, 18(4), 901-914.

- (9) 野島一彦 1988 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1987) —付：同リスト〔～1986〕の追録 福岡大学人文論叢, 19 (4), 981-994.
- (10) 野島一彦 1989 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1988) —付：同リスト〔～1987〕の追録 福岡大学人文論叢, 20(4), 1391-1411.
- (11) 野島一彦 1990 わが国の「集中的グループ経験」に関する文献リスト (1989) —付：同リスト〔～1988〕の追録 福岡大学人文論叢, 21(4), 1669-1687.
- 「集団精神療法」に関する文献リスト (～1989)
- (1) 野島一彦 1991 わが国の「集団精神療法」に関する文献リスト (～1989) —そのⅠ：単行本, 研究論文 福岡大学人文論叢, 23(2), 501-533.
- (2) 野島一彦 1991 わが国の「集団精神療法」に関する文献リスト (～1989) —そのⅡ：学会発表, 翻訳, 書評, 海外文献紹介 福岡大学人文論叢, 23(3), 801-832
- 「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1990～)
- (1) 野島一彦 1991 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1990) 福岡大学人文論叢, 22(4), 1115-1147.
- (2) 野島一彦 1992 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1991) 福岡大学人文論叢, 23(4), 1087-1124.
- (3) 野島一彦 1993 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1992) 福岡大学人文論叢, 24(4), 1 343-1382.
- (4) 野島一彦 1994 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1993) 福岡大学人文論叢, 25(4), 1805-18 34.
- (5) 野島一彦 1995 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1994) 福岡大学人文論叢, 26(4), 1809-18 34.
- (6) 野島一彦 1996 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1995) 福岡大学人文論叢, 27(4), 2049-2074.
- (7) 野島一彦・坂中正義 1997 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1996) 九州大学心理臨床研究, 16, 81-99.
- (8) 野島一彦・坂中正義 1998 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1997) 九州大学心理臨床研究, 17, 99-112.
- (9) 野島一彦・坂中正義 1999 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1998) 九州大学心理臨床研究, 18, 135-150.
- (10) 野島一彦・坂中正義 2000 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (1999) 九州大学心理臨床研究, 19, 103-120.
- (11) 野島一彦・坂中正義 2001 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精

- 神療法」に関する文献リスト (2000)  
九州大学心理臨床研究, 20, 103-120.
- (12) 野島一彦・坂中正義 2002 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2001)  
九州大学心理臨床研究, 21, 151-168.
- (13) 野島一彦・坂中正義 2003 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2002)  
九州大学心理臨床研究, 22, 207-223.
- (14) 野島一彦・坂中正義 2004 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2003)  
九州大学心理臨床研究, 23, 131-143.
- (15) 野島一彦・坂中正義 2005 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2004)  
九州大学心理臨床研究, 24, 117-128.
- (16) 野島一彦・坂中正義 2006 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2005)  
九州大学心理臨床研究, 25, 137-153.
- (17) 野島一彦・坂中正義 2007 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2006)  
九州大学心理臨床研究, 26, 251-268.
- (18) 野島一彦・坂中正義 2008 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2007)  
九州大学心理臨床研究, 27, 137-152.
- (19) 野島一彦・坂中正義 2009 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2008)  
九州大学心理臨床研究, 28, 165-179.
- (20) 野島一彦・坂中正義 2010 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2009)  
九州大学総合臨床心理研究, 2, 101-121.
- (21) 野島一彦・坂中正義 2011 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2010)  
九州大学総合臨床心理研究, 3, 185-198.
- (22) 野島一彦・坂中正義 2013 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2011)  
九州大学総合臨床心理研究, 4, 143-162.
- (23) 野島一彦・坂中正義 2013 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2012)  
跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 9, 3-18.
- (24) 野島一彦・坂中正義 2014 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2013)  
跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 10, 3-25.
- (25) 野島一彦・坂中正義 2015 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2014)  
跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 11, 5-23.
- (26) 野島一彦・坂中正義 2016 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2015)  
跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 12, 3-23.
- (27) 野島一彦・坂中正義 2017 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2016)

跡見学園女子大学附属心理教育相談所  
紀要, 13, 3-24.

- (28) 野島一彦・坂中正義 2018 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2017) 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 14, 9-27.

今回のリストは、「集中的グループ経験」と「集団精神療法」の2018年(1月～12月)の文献を収録している。また、これまでのリストにもれたものを追録という形で収録している。

## 第I部：「集中的グループ経験」

「集中的グループ経験」には、感受性訓練(ST), Tグループ, ラボトリー・トレーニング, グループ・カウンセリング, 健康増進セミナー, 自己発見のための合宿セミナー, 自己との出会いのためのグループ合宿, エンカウンター・グループ, グループ・アプローチ, Lグループ, IPR, CST, 行動集団カウンセリング, ゲシュタルト療法, 交流分析等が含まれる。主に<成長>, <訓練>を目的とするグループである。

2018年の概況は次のようである。単行本は、発行されなかった。研究論文は、18本で前年より減少した。学会発表(口頭発表)は、日本心理臨床学会で15本, 日本集団精神療法学会で1本で前年より減少した。翻訳(単行本)は、発行されなかった。

### A. 単行本

〔該当文献なし〕

### B. 研究論文

1. 林 芳孝 2018 実習「太郎君のキャンパスツアー」～大学の初年次教育における友達づくりに向けて～ 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 17, 56-63.
2. 今岡まゆみ 2018 職業訓練協会での若年者ステップアップ研修報告 新人の指導・育成できる, 頼れる先輩社員になるために 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 17, 26-28.
3. 金子周平 2018 ラージ・グループにみられる構造化とメンバーの自発性 人間性心理学研究, 36, (1), 33-44.
4. 岸田美穂 2018 実践報告: 感性や創造性を楽しみながら, これからの姿を描こう! 私たちの〇〇を発見—クリエイティブ実習— 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 17, 29-35.
5. 西野秀一郎 2018 臨床心理初学者の9回目のベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 6, 97-109.
6. 西野秀一郎 2018 臨床心理士を目指す大学院生の継続型ベーシック・エンカウンター・グループ体験による心理的効果の研究—アイデンティティの模索の促進に焦点を当てて 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 14, 67-79.
7. 野島一彦 2018 グループ・ファシリテーターを育てる 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 6, 9-19.
8. 野島一彦 2018 三タイプのエンカウンター・グループについての検討 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要,

- 14, 3-8.
9. 岡田衣津子 2018 コミュニティづくりにおけるファシリテーション―我が事・丸ごとの地域力”を高めるために―日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 17, 36-41.
  10. 大橋佳奈 2018 ベーシック・エンカウンター・グループの体験の報告と考察 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 14, 123-125.
  11. 大沢知隼・橋本壘他 2018 注意バイアス修正訓練を取り入れた集団ソーシャルスキルトレーニングが児童生徒のソーシャルスキルの維持と般化に及ぼす影響―報酬への感受性の高低による効果の違いの比較― 教育心理学研究, 66, 300-312.
  12. 坂中正義 2018 初学者向けパーソンセンタード・アプローチ・ワークショップの試み―自身との対話をベースとした中核3条件と傾聴の体験的理解をめざして― 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」17, 24-54.
  13. 坂中正義 2018 グループ・アプローチ 野島一彦・岡村達也編「臨床心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第3巻)」遠見書房, 第9章, 113-126.
  14. 鈴木由子 2018 実習「UFO」～コミュニケーション実習として～ 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 17, 50-55.
  15. 津村俊充 2018 グループプロセスをとらえる視点を考える 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 17, 1-9.
  16. 津村俊充 2018 コンセンサス実習を実践するための2つの実習教材 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 17, 42-49.
  17. 山口豊一・大橋佳奈 2018 固定化された人間関係にある中学生に対する介入研究―SGEを用いた効果研究 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 14, 51-65.
  18. 山本春香・能祖美幸 2018 小学生のアサーション・トレーニングに関する質的研究―KJ法による自由記述の分析を通して― 神戸学院大学心理臨床カウンセリングセンター紀要, 11, 55-64.

### C. 学会発表

1. 木村能成・西村 馨 2018 「学校でそれやったら終わりだよ！」―児童期グループにおけるメンタライゼーション―日本心理臨床学会第37回発表論文集, 171.
2. 黒木幸敏 2018 アサーション・トレーニングの効果に関する実践研究―中学校学級を対象とした実践から, 主張性と自尊感情への影響について― 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 41.
3. 宮腰辰男・坂本佑馬他 2018 セクシャル・マイノリティのサポートグループ―参加者のグループ体験について― 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 385.
4. 長野恵子・西村麻希他 2018 県外からの避難者に対するグループ支援活動のプロセス(第6報)―東日本大震災から7年を経過して― 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 148.
5. 中村志寿佳・高橋紀子他 2018 中学生を対象とした「こころの授業」の実践と課題 日本心理臨床学会第37回発表論

- 文集, 223.
6. 那須里絵・西村 馨 2018 子どものグループセラピーにおけるメンタライジングアプローチ—児童期と思春期のグループを比較した検討— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 170.
  7. 日本心理臨床学会第37回 2018 自主シンポジウム: 摂食障害と関わる臨床家向けの自助グループ—有効な摂食障害治療についての再考(2)— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 469.  
企画者: 竹田 剛  
司会者: 竹田 剛  
話題提供者: 武久千夏  
指定討論者: 小原千郷
  8. 日本心理臨床学会第37回 2018 自主シンポジウム: 対象者の特性に応じたサポート・グループの作り方—先行事例から考える— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 471.  
企画者: 大河内範子・高松 里  
司会者: 高松 里  
話題提供者: 宮腰辰男・板東充彦・大河内範子  
指定討論者: 村山正治
  9. 日本心理臨床学会第37回 2018 自主シンポジウム: 臨床事例における「つまづき」について考える(9)—クライアントと他職種の関係性が面接に及ぼす影響— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 477.  
企画者: 安藤友祐  
司会者: 松川春樹  
話題提供者: 東海林 渉・内田美子・大島進吾  
指定討論者: 池田忠義
  10. 西野秀一郎 2018 継続型ベーシック・エンカウンター・グループにおける初めてのファシリテーションの考察—自身のファシリテーションを振り返って— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 147.
  11. 野島一彦 2018 3タイプのエンカウンター・グループについての検討 日本集団精神療学会第35回大会発表論文集, 34-35.
  12. 大河内範子・田村節子 2018 膠原病サポート・グループ参加によるメンバーの心理的変容過程 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 281.
  13. 瀬戸山悠 2018 放課後児童クラブにおける集団遊びプログラム導入の試み—要配慮児童に対する支援を目指して— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 165.
  14. 柴田由起・森本美奈子 2018 軽度発達障がい児を対象とした集団SSTプログラムの検討 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 439.
  15. 山本文枝・西 まゆみ他 2018 大学生のコミュニケーション能力育成のための臨床心理学的カリキュラムの開発(5)—グループワークの試行的実施による検討— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 425.
  16. 山本春香 2018 小学生のアサーション・トレーニングに関する質的研究—KJ法による自由記述の分析をとおして— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 433.

D. 翻訳  
〔該当文献なし〕

E. 書評  
〔該当文献なし〕

F. 海外文献紹介

1. Edgar H.Schein 1982 "What To Observe in a Group", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M. Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 72-74. (岸田美穂・津村俊充 2018 グループで観察すること 体験学習実践研究, 17, 10-14.)
2. Kenneth Bledin 2006 Empty Spaces in Group-Analysis Psychotherapy Groups, Group Analysis. 39, 203-213. (柴田応介 紹介, 2018, グループ・アナシリスの精神療法グループにおける空虚な空間, 集団精神療法, 34(2), 220-223.)
3. Larry Porter 1982 "Group Norm : Some Things Can't Be Legislated", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M.Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 78-80. (岡田衣津子・津村俊充 2018 グループの規範：決められないもの 体験学習実践研究, 17, 21-25.)
4. Richard C. Weber 1982 "The Group : A Cycle from Birth to Death", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M.Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 68-71. (林 芳孝・津村

俊充 2018 グループ：誕生から終焉のサイクル 体験学習実践研究, 17, 15-20.)

付：「集中的グループ経験」に関する文献リスト〔～2017〕の追録

A. 単行本  
〔該当文献なし〕

B. 研究論文

1. 林 芳孝 2016 実習「パワーをGETしろ！Ver.2～勝つ？勝たせる？～」日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 55-63.
2. 平木典子 1999 Tグループと私 JLTAシリーズ, 8.
3. 今岡まゆみ 2016 労働組合研究会での「ハラスメント防止のためのアサーション」研修実践報告 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 37-40.
4. 岸田 美穂 2016 NTLのREADING BOOKから「ジョハリの窓」を読み解く 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 12-15.
5. 岸田美穂 2017 チームアセスメントインベントリーを用いたチーム・ビルディング研修 私を生かす, 相手を生かすチームへのかかわり 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 16, 50-53.
6. 北倉武昭 2016 全身体験型実習のふりかえりを考えるウェビング・テープを使ったチームビルディング『ラクーン・サークル』を用いて 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 32-36.
7. 松場俊夫 2017 「上司にするならど

- っち？」 part I オリジナル編 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 16, 54-58.
8. 松浦光和 2015 Basic Encounter Group における「自己認知」「グループ認知」の変化の研究 宮城学院女子大学研究論文集, 121, 45-54.
  9. 松浦光和・清水幹夫 2013 Basic Encounter Group 参加者の所感の分類(Ⅱ)—ファシリテーターについて— 宮城学院女子大学研究論文集, 116, 27-38.
  10. 二階堂 聡・小木曾 仁美 2016 「デザインコピー」の実践報告 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 16-24.
  11. 岡田衣津子 2017 対話を通じたコミュニティへの参加—ラーニングカフェ FOR CHANGEの実践— 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 16, 38-44.
  12. 岡田衣津子・杉山郁子 2016 実習「百人一首がやりたい！」実習づくりファシリテーター・トレーニングの実践から 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 45-54.
  13. 杉山郁子 2017 「上司にするならどっち？」 part II アレンジ編 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 16, 55-64.
  14. 鈴木健史 2016 保育ファシリテーター養成講座の実施と今後の課題 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 25-31.
  15. 鈴木由子 2016 A病院におけるコミュニケーション研修のプログラムを考える—2日間の集中研修と1日のフォローアップ研修— 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 15, 41-44.
  16. 鈴木由子 2017 緩和ケア認定看護師教育課程における対人演習研修 効果的なコミュニケーションの5つの要素 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 16, 45-49.
  17. 鈴木研司・平山栄治 2017 ロールシヤッハテストから見たエンカウンター・グループ効果に関する事例研究 心理臨床学研究, 34(6), 592-603.
  18. 津村俊充 2017 組織実習「グリーティングカード」※対話型組織開発アプローチの学びの実践として 日本体験学習研究所 体験学習実践研究, 16, 23-37.
- C. 学会発表  
〔該当文献なし〕
- D. 翻訳  
〔該当文献なし〕
- E. 書評  
〔該当文献なし〕
- F. 海外文献紹介
1. J.Luft 1982 "The Johari Window : A Graphic Model of Awareness in Interpersonal Relations", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M. Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 34-35. (岡田衣津子・津村俊充 2016 ジョハリの窓：対人関係における気づきのグラフ式モデル 体験学習実践

研究, 15, 9-11.)

2. Kathy M, Lippert · W Brendan Reddy 1982 "Re-entry, or, You Can Go Home Again —Appropriately", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M.Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 87-90. (岡田衣津子・津村俊充 2017 リエントリーすること, または, あなたは日常に戻ることができる —適切に— 体験学習実践研究, 16, 4-9.)
3. L.Porter · B.Mohr 1982 "Conditions For Laboratory Learning", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M.Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training. (林 芳孝・津村俊充 2016 ラボラトリーでの学びの条件 体験学習実践研究, 15, 4-5.)
4. Larry Porter 1982 "The Learning's in the Flight, But the Payoff's in the Landing", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M.Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 87-90. (林 芳孝・津村俊充 2017 学びは飛んでいるときに, しかし学びの結果は着地のときに 体験学習実践研究, 16, 10-15.)
5. Morley Segal 1982 "Yes, But Was This Experience Real?", Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M. Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 81-82. (林 芳孝・津村俊充 2017 「なるほどそうだが, しかしこの体験は現実だったのか?」 体験学習実

践研究, 16, 1-3.)

6. Robert T.Golembiewski 1999 "Perspectives on the T Group and Laboratory Learning", Edited by Alfred L. Cooke, Michael Brzzel, Argentine Saunders Craig, and Barbara Greig, 8th Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 183-187. (岸田美穂・岡田衣津子 2017 Tグループとラボラトリー学習に関する展望 体験学習実践研究, 16, 16-22.)
7. S.L.Colantuono 1982 "Hands-on" or "Head-trip"...How Do You Learn Best?, Edited by Lawrence Porter, Ed.D., and Bernard Mohr, M.Ed., Seventh Edition, NTL Institute. Reading Book for Human Relations Training, 6-7. (林 芳孝・津村俊充 2016 " やってみる" か" 頭で考える" か…どう学ぶのがよいか? 体験学習実践研究, 15, 6-8.)

## 第Ⅱ部：「集団精神療法」

「集団精神療法」には, 集団心理療法, グループ・セラピー, 心理劇 (サイコドラマ), 活動集団療法, 集団遊戯療法, 集団分析, グループワーク, 治療キャンプ, 集団絵画療法, 音楽療法, 生活技能訓練 (SST), デイケア, 治療共同体, ソーシャル・クラブ, セルフ・ヘルプ・グループ, ダンス療法, グループ連動表現療法, レクリエーション療法等が含まれる。主に「治療」を目的とするグループである。

2018年の概況は次のようである。単行本は, 発行されなかった。研究論文は, 21本で前年より減少した。学会発表 (口頭発

表)は、日本集団精神療学会で27本で前年より減少した。翻訳(単行本)は、発行されなかった。

#### A. 単行本

〔該当文献なし〕

#### B. 研究論文

1. 伊達真理子・藤江朋美他 2018 家族支援プログラム活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 76-79.
2. 今村仁美・城後弓子他 2018 アルコールグループ活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 37-41.
3. 勇 博幸・高田瑞穂他 2018 のみもの依存症グループ活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 80-82.
4. 門脇いづみ 2018 私とロザリーとグループと 集団精神療法, 34(2), 228.
5. 甲斐千穂・後田純子他 2018 「薬物依存症グループ」活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 60-63.
6. 加藤 愛 2018 学会印象記:日本心理教育・家族教室ネットワーク第21回研究集会 沖縄大会 集団精神療法, 34(2), 229-230.
7. 加藤 祐介 2018 IPA Asia-Pacific Conference 2018 TOKYO. IPA アジア太平洋精神分析カンファレンス 東京大会に参加して—「依存」をテーマにした相互交流を通して学んだこと— 集団精神療法, 34(2), 231-232.
8. 古賀禎也・馬郡芳弥他 2018 ギャンブルグループ活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 95-98.
9. 森 智秀・浦上枝里子他 2018 ゲーム・ネット依存グループ 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 103-107.
10. 中本智恵美 2018 グループと時間の流れ 集団精神療法, 34(2), 215.
11. 中島幸良・越智貴紀他 2018 クロザリルグループ 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 108-109.
12. 尾上明代・神宮京子 2018 ドラマセラピーの漸進的發展—架空から現実へ— 集団精神療法, 34(2), 224-228.
13. 才田康成・田中智子他 2018 生活習慣改善グループ 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 83-86.
14. 七田雅史・吉川紗加他 2018 学習グループ 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 87-91.
15. 重松順子・稲永 要他 2018 うつ病の集団精神療法(Dグループ) 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 72-75.
16. 田中 怜子 2018 GASi 43rd Winter Workshop 2018 NORTHFIELD REVISITED 参加体験記 集団精神療法, 34(2), 233-235.
17. 徳永浩子・古賀禎也他 2018 ACグループ 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集,

56-59.

18. 上田玲実・山口まどか他 2018 摂食障害グループ 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 64-66.
19. 山口まどか・大川稚衣他 2018 ウィメンズグループ活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 67-71.
20. 矢野夕紀・河原久人他 2018 措置ミーティング活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 92-94.
21. 米澤隆仁・甲斐 壮他 2018 ソーシャライジングクラブ 活動報告 医療法人コミュニティノテ風と虹 2017年度臨床活動報告論文集, 99-102.

### C. 学会発表

1. 安達佳代・横山太範 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 事例検討：グループメンバーが二分化した際のコンダクターの関わりについて 集団精神療法, 34(2), 216-217.
2. 相田信男・西村 馨他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会自主ワークショップ：「不祥事」（あるいは「Dr.Y問題」）と呼ばれる出来事と学会の「トラウマ」をめぐって—22年目のふり返り— 集団精神療法, 34(2), 213-215.
3. 後藤龍太 2018 日本集団精神療法学会第35回大会シンポジウム：今ここに棲むグループな力—それぞれの現場からの活動報告—多様な支援者が集うコミュニティづくりの実践—「シンの集い」8年間の”かたち”— 集団精神療法, 34(2), 166-168.
4. 東端憲仁 2018 日本集団精神療法学会第35回大会大会長講演：一地方病院の経験 集団精神療法, 34(2), 138-146.
5. 東端憲仁・吉野淳一 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 シンポジウム：今ここに棲むグループな力—それぞれの現場からの活動報告— シンポジウムまとめ 集団精神療法, 34(2), 172-173.
6. 二口之則 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 大会企画：「現場から学ぶ」7. 自助 自助グループ・サポートグループに参加して 集団精神療法, 34(2), 188-189.
7. 藤澤美穂・藤 信子他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 自主ワークショップ：東日本大震災等の相互支援グループⅦ 集団精神療法, 34(2), 211-212.
8. 藤澤希美・高橋 馨他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 自主ワークショップ：〈こうえん〉—自分が大切にするもの— 集団精神療法, 34(2), 206-207.
9. 伊藤美子 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 シンポジウム：今ここに棲むグループな力—それぞれの現場からの活動報告—食べて学んで遊べる—みんなと一緒にだから— 集団精神療法, 34(2), 163-165.
10. 鎌田明日香・青陽千果他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 大会企画：「現場から学ぶ」3. 学校教育 学校で、そこに棲む”グループな力”を活用する—学校集団力動, ことはじめ—

- 集団精神療法, 34(2), 178-180.
11. 鴨澤あかね・大島寿美子他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 自主ワークショップ：“機能的サブグループ”で対人コミュニケーションを学ぶ 集団精神療法, 34(2), 193-194.
  12. 梶本浩史・鎌田明日香他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 自主ワークショップ：スクールカウンセラーX集団精神療法—学校でおきることを精神集団療法的な視点と方法で検討する— 集団精神療法, 34(2), 197-198.
  13. 木下香織 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 事例検討：精神科病院における女性グループ—患者と看護師の相互交流の場としての挑戦— 集団精神療法, 34(2), 218-219.
  14. 水上真理子・渡部京太 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 大会企画：「現場から学ぶ」4. 児童 集団の中で子ども達と関わりあう 集団精神療法, 34(2), 181-182.
  15. みなこ・みか 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 シンポジウム：今そこに棲むグループな力—それぞれの現場からの活動報告—こんなグループもあり!?!—摂食自助のゆる—い繋がり— 集団精神療法, 34(2), 169-171.
  16. 望月洋介・伊藤香南子他 2018 集団行動活性化療法を主軸としたうつ病デイケアの効果検討（その2）—行動活性化指標を用いた効果検討— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 268.
  17. 望月洋介・竹市 峻他 2018 集団行動活性化療法を主軸としたうつ病デイケアの効果検討（その1）—デイケア導入前後の各評価尺度の比較を通じて— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 267.
  18. 望月洋介・田代 順 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 自主ワークショップ：ナラティブなグループアプローチを体験する〈その8〉—体験グループにリフレクティングを応用する— 集団精神療法, 34(2), 208-210.
  19. 向谷地生良・橋本侑治他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 特別講演：対話の持つ力—オープンダイアログと当事者研究が拓く世界— 集団精神療法, 34(2), 147-158.
  20. 室城隆之 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 自主ワークショップ：ゲシュタルト療法ワークショップ—集団精神療法としてのゲシュタルト療法— 集団精神療法, 34(2), 202-203.
  21. 鳴海紗恵 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 シンポジウム：今そこに棲むグループな力—それぞれの現場からの活動報告—集って食べて話す—ネモフィラの分かちあい— 集団精神療法, 34(2), 160-162.
  22. 二之宮正人・福澤宏之他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 自主ワークショップ：急性期病棟と地域におけるグループの実際と意義—急性期治療から地域生活支援への動向を踏まえて— 集団精神療法, 34(2), 195-198.
  23. 埜瀬ゆり恵・小黒明日香他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 大会企画：「現場から学ぶ」2. 組織（職場等）”感情労働”の現場に棲む”グループな力”を活かそう！ 集団精神療法, 34(2), 176-177.

24. 重泉敏聖・清水耕策他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 大会企画：「現場から学ぶ」1. コミュニティ 街づくりからみたグループ 集団精神療法, 34(2), 174-175.
25. 下川亜弥子・岡本峰淑 2018 臨床心理士が療育でできること(2)—4.5歳児へのグループワーク実践例をもとに— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 113.
26. 鈴木育美・宮城崇史 2018 日本集団精神療法学会第35回大会 大会企画：「現場から学ぶ」5. 司法・厚生 女性受刑者に対する薬物依存離脱指導修了後の「フォローアップ・グループ」 集団精神療法, 34(2), 183-185.
27. 竹市 峻・望月洋介他 2018 集団行動活性化療法を主軸としたうつ病デイケアの効果検討(その3)—介入効果に影響を与える要因の検討— 日本心理臨床学会第37回発表論文集, 269.
28. 藤堂信枝・高林健示他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会自主ワークショップ：戦争体験のシェアリングに向けた試み 集団精神療法, 34(2), 204-205.
29. 渡部京太・西村 馨他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会自主ワークショップ：子どものグループを考える—施設に入所している子どもとの集団精神療法の実践を通して治療構造を考える— 集団精神療法, 34(2), 199-201.
30. 吉野 良・常盤野晴子他 2018 日本集団精神療法学会第35回大会大会企画：「現場から学ぶ」6. 地域での支援 地域での支援現場に棲む”グループな力”を活用する 集団精神療法, 34(2), 186

-187.

31. 神宮京子 2018 日本集団精神療法学会第35回大会自主ワークショップ：グループの多彩な力を体感する—ダンス/ムーブメントセラピーを通して— 機能的サブグループ”で対人コミュニケーションを学ぶ 集団精神療法, 34(2), 190-192.

#### D. 翻訳

〔該当文献なし〕

#### E. 書評

〔該当文献なし〕

#### F. 海外文献紹介

1. 柴田応介 2018 グループ・アナリシスの精神療法グループにおける空虚な空間 日本集団精神療法, 34(2), 220-223.

### 付：「集団精神療法」に関する文献リスト〔～2017〕の追録

#### A. 単行本

〔該当文献なし〕

#### B. 研究論文

1. 永山智之 2017 自閉スペクトラム症と診断された青年への個人療法とグループ活動のコンバインド・セラピー 心理臨床学研究, 35, (5), 526-537

#### C. 学会発表

〔該当文献なし〕

#### D. 翻訳

1. W.Brendan Reddy 1994 INTERVENTION SKILLS Process Consultation for Small Groups and Teams (津村俊充監訳 / 林 芳孝・岸田美穂・岡田衣津子訳 2018 インターベンション・スキルズ チームが動く, 人が育つ, 介入の理論と実践 金子書房)

#### E. 書評

〔該当文献なし〕

#### F. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### 〔お願い〕

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけれられた方, もれている文献を御存知の方は, 野島まで御連絡願えれば幸いです。

連絡先 〒352-8501

埼玉県新座市中野 1-9-6

跡見学園女子大学心理学部

野島一彦

TEL 048-478-4252

FAX 048-478-3475

E-mail [nojima@atomi.ac.jp](mailto:nojima@atomi.ac.jp)

URL <http://nojimakazuhiko.jimdo.com/>